

(学校運営協議会・報告様式)

令和6年度 第6回 鈴鹿市立清和小学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和7年2月7日(金) 15:00 ~ 16:00

2 場 所 清和小学校図書室

3 あいさつ(学校長、委員長)

4 協議内容

(1) 学校関係者評価について

本年度の教育活動を振り返り、それに対する関係者評価を行った。それ踏まえて今後に向けた改善策をまとめ、さらに意見交流を実施した。

(委員から)

- ・学力向上×ICTについては、ICT機器を活用した授業を参観したい。授業参観をしたうえで、状況をつかみ、具体的な意見を述べられるようにしたい。
- ・自己肯定感の向上においては、授業参観において、グループ活動やスピーチなどが取り入れられていて、自分から発信する姿を見た。その様子を見て、取組が進んでいると感じている。
- ・ICTについて、子どもたちに様子を聞くと、学習していることを具体的に話していて、取組が進んでいることがよくわかった。
- ・自己肯定感については、アンケートに「先生や仲間に認められている」という項目があるが、大人から子へ、あるいは子ども同士で「すごいね」などと伝え合う機会が少なくなっているのかもしれない。
- ・頑張っても求められるものが大きいと、評価が低くなることがある。本人の思いと周囲からの評価に差があると、本人の自信や自己肯定感は高まらないこともある。ボランティアとして子どもたちと関わり、子どもをほめた時、本人もがとてもよい表情をし、さらに周囲も認められようと頑張る姿が見られた。ほめる、ほめられる、ということがとても重要ではないか。
- ・自己肯定感が低い子や認められていないと感じている子。一生懸命して、努力もしているが、認め、ほめられないことがある。親だけの評価では高まらないこともあり、周囲から認められる経験を通して、自信を高めることもある。私は認められているという思い、経験が大切だと思う。
- ・子にかかわる大人としては、保護者、学校の職員が多いと思う。ボランティアの言葉でそれだけ気持ちが高まるのなら、もっと学校でもできることがあるのではないかな。そういう視点で、折に触れて、子どもとの接し方を見直すことも大切。

- ・友達が困っているときに助けることができる、助けを求めることができる、ということが、難しい場合もある。大人が考えても難しさを感じることもある。継続的な取組が必要。
- ・長期欠席の減少については、簡単にはいかないが、欠席の多い児童にどうアプローチして、どう働きかけていくか、継続的に考えていく必要があると思われる。

(2) 令和6年度学校運営協議会の振り返り

- ・地域の方々といろんな話ができるこの場が貴重である。
- ・今年度の取組、関係者評価などを通して、来年にできることを考えていきたい。
- ・子どもはよく大人を見ているとを感じることもある。子どもの話を聞くことも大切で、見守ることも大切。声掛けの仕方で子どもたちの反応も大きくかわることも経験した。今後も関わり方を考えていきたい。
- ・今の時代の人との関わりというのは難しさもある。子どもたちの感覚もそれぞれ違い、多岐であるし多様である。どうやって子どもたちとどうにかかわるかを考えていくことは大変だが大切である。
- ・自治会として、学校に協力できるかという点について考えたい。下校時の見守り、地域の行事、地域学習等に協力していきたい。地域に目をやると、子ども会に所属する子ども大きく減っている。価値観や生活の違いもあって難しいが、考えていきたい。

5 鈴鹿市教育委員会アドバイザーより

学校の教育活動に対して、意見等をいただきありがたい。評価書にも来年につながる意見をたくさんいただいている。今日の協議の中で ICT 活用の具体的な様子がわからないという意見もある。来年度は ICT を活用すると何ができるのか、学習がどう充実するかを知ったり、実際に体験したりする機会の設定を検討する必要がある。

非認知能力についての意見も多かった。認められることが子どもたちにとっても大きな経験となる。子どもたちはいろんなことで認められ、ほめられたいという思いをもっている。子どもたちとのコミュニケーション中に、認めたりほめたりする一言を入れていくことが子どもたちに伝わっていく。地域等でも、この視点をもって声をかけていただくと、子どもたちにもよい機会になる。今後も協力をお願いしたい。